

## 盛岡市クリーンセンター

# 公害防止対策協議会だより

平成31年3月 **41号**

公害防止対策協議会事務局  
(盛岡市クリーンセンター内)

連絡先：(019)663-7153

今回は、協議会及び公害監視委員会の会議内容、施設見学の受入れ状況、平成30年度調査研究事業・視察報告及び平成30年度上半期環境モニタリング結果などについてお知らせします。

### 会 議 内 容

#### 第72回公害防止対策協議会 [平成31年1月29日開催]

- 平成30年度上半期環境モニタリング結果について
- 松園定点観測所の浮遊粒子状物質の基準値超過に係る報告について
- 松園定点観測所の塩化水素濃度測定装置の故障に伴う欠測に係る報告について
- 平成30年度調査研究事業・視察報告について
- 飛灰及び主灰中金属等溶出試験結果について
- 盛岡市廃棄物対策審議会委員の選出方法について

#### 第47回公害監視委員会 [平成30年11月21日開催]

- 平成30年度上半期環境モニタリング結果について
- 松園定点観測所の浮遊粒子状物質の基準値超過に係る報告について
- 一酸化炭素濃度ピークの発生状況について
- 飛灰及び主灰中金属等溶出試験結果について
- 平成31年度プラント設備改修工事について

### 松園定点観測所の浮遊粒子状物質基準値超過の原因

平成30年8月14日(火)午後10時、松園定点観測所(北松園四丁目 北松園太陽の広場内)において、浮遊粒子状物質(SPM)の基準値 $0.200\text{mg}/\text{m}^3$ を超過する $0.249\text{mg}/\text{m}^3$ が検出されました。現地調査の結果、花火が使用された痕跡が確認されました。この花火が原因となって基準値超過に至ったと考えられます。

観測所付近で花火をすると、正しい計測ができなくなるので、絶対にしないでください。



定点観測所では、地域の大気の状態を測定しています。



## 施設見学の受け入れ状況

今年度は12月末までに、小学校をはじめ55団体、2,368人が、環境学習などの一環として施設見学に訪れました。10月にはJICA・日本国際協力機構のフィリピン青年研修生15人が災害廃棄物の処理をテーマに盛岡を訪れ、クリーンセンターでは、ごみ処理の流れや公害防止対策などについて熱心に学んでいました。

### 施設見学の受け入れ実績 (単位：人)

内訳	年度	H27	H28	H29	*H30
小・中・高生		1,799	1,939	2,021	2,147
町内会・子ども会		116	85	91	118
企業・団体		126	264	234	103
合計		2,041	2,288	2,346	2,368

\*H30年度は4月から12月までの人数



フィリピン青年研修生一行

## 平成30年度調査研究事業・視察報告

公害対策防止協議会では、平成30年10月18日（木）大規模ごみ焼却施設の実例調査を目的として、青森市清掃工場（青森市大字鶴ヶ坂字早稲田241番地1）を視察しました。

### ◎ 施設概要

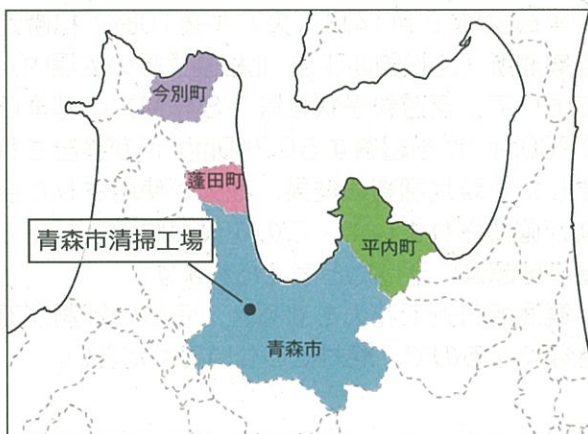
青森市清掃工場は、梨の木清掃工場と三内清掃工場の老朽化に伴い新設された。三内清掃工場は、余熱利用施設を含めて既に解体されているが、梨の木清掃工場は煙突のみの解体となっている。収集区域は青森市のほか平内町・今別町・蓬田村であるが、運営主体は青森市であり、他町村から事務委任を受けて運営している。

使用開始	平成27年4月	
建築構造	地下1階、地上6階、建物高さ30m 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部、鉄筋コンクリート・鉄骨造）、煙突59m	
処理方式	可燃ごみ処理施設 破碎選別処理施設	流動床式ガス化熔融炉 二段破碎+磁力・風力・粒度・アルミ選別
処理能力	可燃ごみ処理施設 破碎選別処理施設	300 t/日 (150 t/日×2炉) 39.8 t/日

### ◎ 資源化及び余熱利用について

破碎選別処理施設を有し、可燃ごみだけでなく不燃ごみや粗大ごみも受け入れている。ガス化熔融炉で生成されるスラグのほか鉄やアルミを選別してリサイクルしている。可燃ごみについても前処理として破碎処理を行っており、ごみ質の均質化を図っている。

余熱利用施設はなく、全て蒸気タービン発電に利用されている。大規模な太陽光パネルが印象的であったが、発電量は全体の2%程度にとどまる。





## ◎ 施設見学対応

施設紹介用ビデオは小学生向けに作成されており、青森市の環境保全シンボルキャラクターを活用し、わかりやすく説明がされていた。また、足踏みによる発電体験から施設での発電能力の高さを体感できるコーナーが特徴的であった。

## ◎ 質疑応答

Q：古紙類の搬入制限をしたことによる収集運搬費用の軽減やごみ減量の効果は。

A：可燃ごみの量は、かなり減少している。平成26年度から32年度までの間で1万t程度減量させることを目標としていたが、現在は、ほぼこれに近い値となっており、平成31年を待たずに目標を達成する見込みである。収集運搬費用の面でも成果が上がっている。

Q：広域化にあたり検討したことは何か。

A：建設地は、旧梨の木工場跡地も候補地となっていたが、現在の場所が最終処分場用地として既に取得済みであり、ごみ処理場から最終処分場への運搬におけるメリットが大きいことからこの場所に決定した。広域化としたのは、国からの交付金対象事業とするためであった。建設地が山の中であるため、生息する生物への影響を含めた環境影響評価を行っている。建設業者の選定に当たっては、非価格要素と価格要素をそれぞれ評価し決定した。

Q：処理方式は、市が指定したものか。溶融炉は運営費が高い印象を持っていたが実際はどうか。

A：処理方法は、市から「ストーカ炉+灰溶融炉方式」「分離式ガス化溶融炉方式」「一体式ガス化溶融炉方式」のいずれかとして条件を出し、入札ではいずれの方式も提案にあった。当工場の運営費は20年契約で約76億円であり、単純計算で年間3.5～4億円とすると、全国平均より安いと思われる。

Q：最終処分場の運営はどのようにされているか。

A：施設などの財産は市の所有であるが、運営は指定管理者が行っている。当施設の運営とは別の組織である。

Q：ごみの搬入検査は行っているか。

A：週1回可燃ごみの展開検査を行っている。サンプリングの選定には、業者に偏りがないよう気をつけている。

Q：除雪はどのように対応しているか。

A：除雪業務も含めて運転管理業務として委託している。

Q：施設建設に当たり、事前に地域住民との協定などは結んでいるか。

A：協定などは結んでいないが、周辺地域との運営連絡委員会を設置し、排ガスや臭気など、運営状況について報告している。



施設概要を示した展示物



青森市清掃管理課の方々にお話を伺いました

## ◎ まとめ

青森市のごみ排出量は、平成28年度実績で110,777 t（市民一人当たり1,044g/日）、県としても47都道府県中で第42位と多くなっているが、古紙類の搬入制限が成果をあげており、目標値を早期に達成できる見込みとのことであった。

今回、ごみ処理能力が当市クリーンセンターと同等以上の施設の実例調査として見学したが、市街地から離れた場所に設置されており、近隣住民への配慮という点では特段問題は抱えているようではなかった。



## 平成30年度上半期環境モニタリングの結果

各焼却炉とも安定燃焼が図られ、すべて基準値内の結果となりました。

### 排ガス中ばいじん等濃度測定結果

	ばいじん濃度 (排出基準 0.01g/Nm <sup>3</sup> )			硫黄酸化物濃度 (排出基準 10ppm)			窒素酸化物濃度 (排出基準 100ppm)			塩化水素濃度 (排出基準 10ppm)		
	1号炉	2号炉	3号炉	1号炉	2号炉	3号炉	1号炉	2号炉	3号炉	1号炉	2号炉	3号炉
単位	[g/Nm <sup>3</sup> ]			[ppm]			[ppm]			[ppm]		
4月	0.000	0.000	0.000	0.6 (1.2)	0.4 (0.7)	0.6 (0.7)	56.3 (68.2)	66.1 (70.2)	66.6 (70.4)	3.9 (5.6)	4.7 (5.4)	4.2 (4.7)
5月	0.000	0.000	0.000	0.5 (0.8)	0.4 (0.5)	0.6 (0.9)	60.5 (70.1)	67.6 (70.3)	61.0 (68.9)	4.2 (6.4)	4.7 (6.2)	3.6 (5.0)
6月	0.000	休炉	0.000	0.4 (1.1)	休炉	0.5 (2.1)	67.7 (75.7)	休炉	57.5 (68.2)	4.0 (5.1)	休炉	4.3 (5.2)
7月	0.000	0.000	0.000	0.3 (0.4)	0.4 (0.5)	0.5 (0.6)	68.2 (71.2)	66.2 (73.3)	57.2 (68.8)	3.0 (4.2)	4.5 (5.5)	4.2 (5.1)
8月	休炉	0.000	0.000	休炉	0.4 (0.5)	0.5 (0.6)	休炉	65.4 (75.6)	55.8 (67.6)	休炉	4.4 (5.0)	4.2 (5.0)
9月	休炉	0.000	0.000	0.5 (0.7)	0.4 (1.3)	0.4 (0.5)	58.3 (60.1)	61.0 (70.6)	54.5 (67.5)	3.5 (4.2)	3.9 (4.8)	3.6 (4.6)

※ 上段の数値はその月の平均値を示し、下段（括弧書）の数値はその月の1時間値の最高値を示します。

※  は、休炉のため稼働日数がその月の半数に満たなかった月を示します。また、休炉と記載したものは稼働日数がゼロの月を示します。

### 排ガス中ダイオキシン類濃度測定結果

単 位	ダイオキシン類濃度 (排出基準 0.1ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> )	測 定 日
	[ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> ]	
1号炉	0.00030	平成30年6月13日
2号炉	0.0015	平成30年9月5日
3号炉	0.011	平成30年7月9日